ICU というところ

沖縄県立中部病院　依光　たみ枝

特定集中治療加算と後輩の集中治療専門医受験資格に私の専門医資格が必要ということで、八重山病院を定年退職後の再就職先が本人の承諾前にすでに中部病院 ICU に決まっていた。思えば通算 12 年以上 ICU 専従医として、研修医と一緒に仕事をしてきた中で、いろいろな患者さんとの出会いがあった。今も思い出に残るエピソードをいくつか紹介したいと思う。

＜抜管直後の一言＞

コロナ前の ICU 入室は年間約 1,000 例だったが、2020 年以降はコロナ重症例の入室と Non コロナ患者の入室制限で約 700 例前後に減少した。毎年約 50% が挿管例で抜管時はスタッフも患者もチムドンドンする出来事である。抜管後「水飲みたい」と訴える患者がほとんどであるが、時に「お腹すいた～」の患者の回復力はすごいものがある。食欲は最高の治療薬と納得させられた。

多発外傷で挿管された小学校 6 年生の男の子の抜管直後の第一声は、ICU に響き渡る「ありがとうございました !!」、野球少年であった。

＜女は強し＞

40 代女性、交通外傷による大血管損傷で手術となった。輸血が間に合わず Ht5% まで低下したが心停止することなく、中枢神経後遺症もなく退院した。文献を検索すると急性重症貧血で生存したのは、ほとんどが中年女性であった。その症例を契機に輸血の基準が大幅に変更になったのは言うまでもない。

また「オバー呼んでのオジーおれど、オジー呼んでのオバーなし」は ICU ではよく経験する。「女は弱し　されど母は強し」は、現在では「女は強し　いくつになっても強し」である。

ちなみに生命保険会社の「一緒に旅行したい」アンケートによると、女性の回答は 1 位女友達、2 位娘、3 位夫、男性は 1 位妻 ....、この落差は何からきてるのか？

＜誰のせい？＞

泡盛天国の沖縄県は、ICU 入室患者でアルコール性肝硬変が全国平均の 3 ～ 4 倍多い。医師「肝臓が悪いのはお酒のせいですよ」、患者「そうですよね、家族は私が悪いと言ってます」、アルコールにまつわるジョーク集と同じ言い訳をする患者がいた。腹痛をまぎらわそうとさらにお酒を飲み、急性壊死性膵炎で入室した患者がいたかと思えば、お酒が飲めなくなったと救急室を受診した患者もいた。

＜意識障害？＞

80 代女性、開心術後自発開眼なしでなかなか覚醒しない。術後回診でベッドの周囲を取り囲んだ白衣の集団を某宗教団体と思い、拉致されてると勘違いしてたことがあとで判明した。

ICU は I See You、愛、死、憂がたくさん詰まったところです。患者さん・家族からいろんな事を学び教えてもらいながら、時にはいつまで治療を続けるのか悩みながら、患者さんにそれぞれ違った人生があるように答えはいく通りもあると自問自答する日々が続いてます。